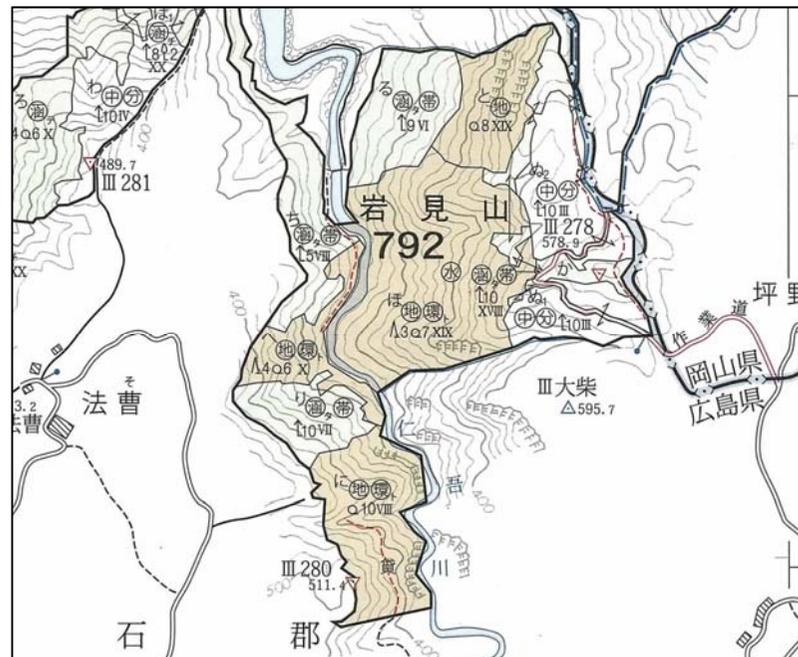
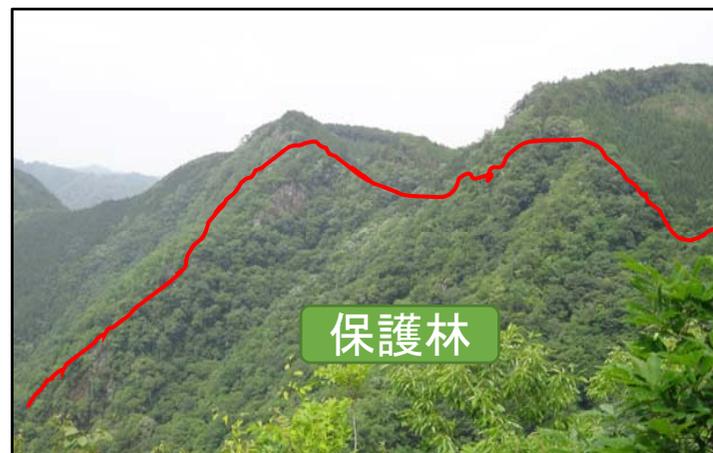


①岩見山希少個体群保護林の取扱いについて



保護林の概要

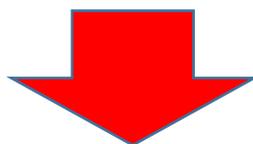
岩壁地形に成立したアカマツ、コナラ、ソヨゴ等が優先する針広混交林で、下層にはコバノミツバツツジ、アセビ、ヤマツツジが生育。



東側区域の遠景

保護林管理委員会における主な意見

- ・希少種の個体が少ないとしても、岩石地であることから、例えば、天然分布の分かっていないコナラ、アベマキに関する情報を得る貴重な場所と考えられないか。(H29年度)
- ・中国地方の植生は日本の中でも日本・ウスリー要素が濃密に出ている特色ある地域で、岩見山はその典型的な植生である。(H30年度)
- ・保護林の役割は、地域の典型的な森林、典型ではないが特殊な森林がどのようなものか、認識できるようにすることであり、一般的な森林も地域の標本として保存しておくべき。(H30年度)



岩見山希少個体群保護林調査業務（本年度に実施中）

- ・保護林のうち仁吾川右岸斜面の露岩部に照点をしぼり、既存データの少ない草本層を重点的に植物相調査を行い、樹木類及び草本類の種組成を分析。
- ・これらの分析結果と既往の知見を基に、フロラリスト、希少種確認位置図を作成。
- ・作成に当たっては、環境省及び広島県RDBなどに選定されている希少種、我が国に現在成立している植生を説明する上で注目すべき植物種などを抽出。

②金剛山ブナ希少個体群保護林における山腹崩壊について



奈良県

金剛山ブナ希少個体群保護林



保護林の概要

ブナ、ナラ、スギ等の成木が点在する中に、ミツバツツジ、リョウブ、ネジキ等の小灌木が生育する天然林であり、下層には、バイケイソウ、カワチブシ、ユキザサ、マムシグサ、カタクリ等が生育。一部の箇所ではニリンソウの群落が成立。

現在の状況

- ・ 昨年の豪雨、台風も含め、崩壊拡大の兆候は見られないものの、土石流発生の懸念。
- ・ 山腹工など施工すべき治山事業の工種や配置等について、測量設計を実施中。